

キャンプカウンセラーの性役割がキャンパー の性役割意識に及ぼす影響

関 智 子
飯 田 稔*
橋 直 隆*

Effect of camp counselors' gender-roles on campers' gender-role awareness

Tomoko.SEKI Minoru.IIDA* Naotaka.TACHIBANA*

Key words : gender-role awareness, camp counselor, camper

The purpose of this study was to investigate 1) camp counselors' gender-roles, 2) the effect of camp counselors' gender-roles on campers' awareness of gender-roles.

Subjects consisted of 76 campers (male=42, female=34), 5th to 7th grade school children, and 8 camp counselors (male=4, female=4) who participated in Shizuoka Frontier Adventure Camp held in 1993. The campers rated the camp counselors on gender-roles using the Camp Counselor Gender-Roles Inventory before and after camp.

This study revealed the following results :

- 1) Regardless of counselors' gender, campers' scores on Masculinity decreased on the gender-roles "Activity-energies" dimension.
- 2) For the female counselor group, the female campers scored lower on Femininity on the gender-roles "Care-sensitivity" dimension.
- 3) Male and female campers' scores on Humanity decreased on the gender-roles "Sincerity to Children" dimension in connection with the female counselor group, and therefore the campers changed into similar awareness of camp counselors' gender-roles.

* 筑波大学体育科学系 (Institute of Health and Sport science, University of Tsukuba)

受理 : 1996年 2月17日

緒 言

“男性らしさ”、“女性らしさ”の尺度として、性役割の概念が注目されている。

Brovermanら²⁾は、一般的に男性には「能力」、女性には「あたたかさと表情の豊かさ」が求められていることを報告している。こういったステレオタイプは、社会が要求する性別への役割期待を意味し、男性・女性に対して異なった影響を及ぼしている。

Rosenkrantz⁹⁾は、ステレオタイプが女子学生の自己概念に強く影響しており、女子が男子よりもネガティブに自己評価することを示唆している。また伊藤⁶⁾は、男性は男性役割の特性を全うすることで社会的望ましさを得るが、女性は女性役割の特性に沿えば未熟で望ましくないとの評価を受け、他方、社会的望ましさに従えば、女性的ではないと評価されることを指摘している。これらの報告は、性役割の及ぼす影響力が男性と女性に対してでは異なっていることを裏づけるものである。

ところで、キャンプは非日常的で、男女の役割づけが比較的少ない活動といえる。その中で、キャンプカウンセラー（以下、カウンセラーとする）は、指導上重要な立場に置かれている。Mitchell&Meier⁵⁾は、良いカウンセラーの条件として「人間が好きなこと」「同情心、共感性があること」「自然が好きなこと」に代表されるような男女共通の資質を提唱している。しかしながら、カウンセラーの性別や性役割上の側面を考慮した特質については触れていない。一般社会の影響を受けていると思われる男女カウンセラーが、キャンプ生活ではどのような性役割を担っているのか、またそれがキャンパーにどのような影響を与えるのかについての報告は、筆者が調べた範囲では行われていない。

そこで、男女カウンセラーの性役割について評価するとともに、カウンセラーの性別、性役割がキャンパーの意識にどのような影響を及ぼすかについて検討する。

以上の目的を明らかにするために、次の課題を設定した。

課題1 カウンセラーに対するキャンパーの性役割意識構造を明らかにする。

課題2 カウンセラーに対するキャンパーの性役割意識がキャンプ経験によってどのように変化するかを明らかにする。

研究方法

1. 被検者

1993年7月11日～12日の事前研修及び同年8月1日～11日に行われた静岡県フロンティア・アドベンチャー・キャンプの全日程に参加した、小学校5年生～中学校1年生までの参加者76名（男子42名、女子4名）8名を被検者とした。

2. キャンプの概要

キャンパーの学年・男女を、ほぼ均等に配分し、1班9人～10人の8班編成で行った。また班づきの指導者として、カウンセラーが各班に1人ずつ割り当てられた。キャンププログラムは、班内の仲間作りを中心とした冒険ウォークラリー、班ごとにビバークを行った1泊2日のサバイバルハイクや、パラグライダー、川遊び、マウンテンバイク、シャワークライミング、ロッククライミング、草木染め、バター作りなど様々な活動からキャンパーが自由に2種目選択できるお好み活動、その他クラフト、キャンプファイアーなどにより構成された。

表1 プログラム

	午前	午後	夕方・夜
8/1		受付 朝のチェック 開村式 設営 かまど作り	
8/2	冒険ウォークラリー (レジャーゲーム) 朝霧大冒険「君は勇者になれるか！」		
8/3	クラフト	展示会	
8/4	パラグライダー・草木染め・川遊び お好み活動 マウンテンバイク作り シャワークライミング・ロッククライミングなど		青空市場 食事コンテスト
8/5	お好み活動 一日目と異なるものを選択		
8/6	班別活動 ブーメラン作り		ボンファイアー
8/7	キャンプ場の 日曜日 4人4人4人の準備		
8/8	大沢崩れサバイバルハイク キャンプ場～本木林道～大沢		ビバーク
8/9	(続) 大沢崩れサバイバルハイク 大沢～本木林道～キャンプ場		
8/10	休養	体験発表会	お別れファイヤー (キャンプ・ヒース)
8/11	撤収清掃 後片付け	退所式	

これらは全体的に班単位で活動するプログラムが主要だったが、お好み活動やキャンプ場の日曜日（カウンセラーの休養日）などでは、担当カウンセラー以外のカウンセラーやスタッフと共に活動する機会も含まれている。

なお、本研究では、キャンプ全体を通して、カウンセラー及びキャンパーの性役割上の操作はいっさい行わなかった。したがってカウンセラーはキャンプ場、あるいはサバイバルバイクのようなキャンプ場外においても、同様に担当班の指導を行った。なお、お好み活動では、マウンテンバイク、川遊び、パラグライダー、シャワークライミング、ロッククライミングなどの動的活動は、男性スタッフと少数の女性スタッフが行い、草木染め、バター作りなどの静的な活動は、主として女性スタッフが行った。

3. 検査及び手続き

3. 1. キャンパー性役割意識調査

カウンセラーの性役割を、キャンパーの評価を通して測定するために意識調査を行った。赤井¹⁾、Bem²⁾、Heilbrun^{3) 5)}等の文献を参考に、カウンセラーの条件・資質として考えられる49項目を採択し、児童・生徒用に修正・作成した。

「次の事柄について、あなたは、男子カウンセラーと女子カウンセラーのどちらの方があてはまると思いますか。」というキャンパーに対する問に対し、「男子である」、「どちらかといえば男子である」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば女子である」、「女子である」の5段階評定により回答した。得点化にあたり、おのおの-2点から-1点、0点、1点、2点を与え、各項目別の性役割得点を求めた。なお、本調査は事前研修（キャンプ20日前）前のpre調査とキャンプ10日目のpost調査の2回実施した。

3. 2. その他の調査

キャンプ指導を行う際、その指導方針に影響を与えられる個人の性役割観について、8名のカウンセラーに、キャンプ初日とキャンプ10日目の2回にわたり、自由記述形式で調査を行った。

結果と考察

1. カウンセラーに対するキャンパー

の性役割意識構造

キャンパー性役割意識調査のうち、キャンプ経験によってカウンセラーの性役割に対する認識が確立されたと考えられるpost調査について因子分析を行った。因子負荷量0.5以上を有効とし、項目2つ以上を含む10因子を抽出した（表2）。これらの因子命名は、文献と専門家の意見を参考に行われた。

伊藤⁶⁾は、性役割の評価に関する研究で、男性役割に該等する性質をMasculinity、女性役割に該等する性質をFemininity、さらに男性と女性を包括的に示す性質をHumanityとして分類を行っている。本研究では、Masculinityを男性役割、Femininityを女性役割、Humanityを男女共性役割と解釈し、考察を進める。

前述した10因子を伊藤に従って分類すると、指導力のある、行動力のある、自己主張のできる、等に対応する「活動性・行動力」（第1因子）は男性役割にあたる。また、言葉使いがていねいな、繊細な、従順な、献身的な、静かな、などに対応する「気づかい・細やかさ」（第2因子）、「子供の尊重と愛護心」（第5因子）、「非自立性」（第6因子）、「母親的役割」（第9因子）は女性役割にあてはめることができる。一方、「責任感」（第3因子）、「子供に対する誠実性」（第4因子）、「決断力・あたたかさ」（第7因子）、「規則・マナーに関する忠実さ」（第8因子）、「自然に対する認識度」（第10因子）は、男女共性役割に相当するものである。

したがって、本研究における性役割因子構造は、男性役割=1因子、女性役割=4因子、男女共性役割=5因子によって成り立っていることがわかる。

2. 性役割意識の変化と性差の関連

性役割得点の変化と性差の関連を明らかにするために、それぞれの因子について性役割得点の平均値を求め、測定段階（pre・post）、キャンパー性別（男子・女子）、所属する班のカウンセラー性別（男性・女性）を3つの要因とする分散分析を行った。

まず測定段階の主効果では、「活動性・行動力」に有意差が認められた。 $(F(1,72) = 6.66, p < .05)$ 。キャンパー全体の平均値が、 $-.95$ ($SD = .52$) から $-.75$

表2 性別意識調査 因子構造

質問項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
第1因子 活動性・行動力										
弱音を吐かずに我慢強く行動する	.787	-.089	.126	.056	-.086	.043	-.008	-.104	-.027	.049
言葉だけの説明だけでなく実際に手本を見せる	.764	-.013	-.002	.186	.230	.120	.002	-.077	.020	-.057
体や服装が汚くなる仕事も楽しんで行う	.663	.005	.265	-.169	-.162	-.283	.200	-.055	-.090	-.009
キャンプ活動が大好きである	.851	-.177	-.033	.130	.006	.118	-.075	.047	-.112	.019
やる気があり、生き生きと活動する	.643	.167	.036	.104	-.011	.050	.025	.176	-.203	-.054
キャンプファイヤーの薪の組み方を教える	.840	-.065	.153	-.230	-.312	-.105	.001	.079	-.222	.163
人前でも大きな声ではっきりと、わかりやすくしゃべる	.606	-.365	.016	-.147	.103	-.085	-.200	.060	.052	-.121
キャンプ生活で何を行えば楽しいのか自分で探し出せる	.580	.079	-.135	-.127	-.103	.067	.251	.094	-.130	-.114
体にパワーがある	.556	-.343	.238	-.128	-.227	-.239	.111	.021	-.052	.070
第2因子 気づかい・細やかさ										
言葉遣いが丁寧である	-.084	.767	-.008	.075	.290	-.036	.084	.102	-.022	.014
細かいところに気がつき心配りができる	-.076	.725	-.171	.094	.040	.003	-.132	.074	.090	.079
困ったことがあればすぐに助けてくれる	.097	.554	.096	.228	-.014	-.009	.422	-.315	-.051	.008
でしゃばらずに、ひかえめに行動する	-.179	.553	-.199	-.055	.066	.027	.029	.085	.041	.116
第3因子 責任感										
最後まで責任をもって仕事をやり通す	.284	-.170	.772	-.260	.105	-.108	-.085	.023	.067	.023
自然の中で火のつけ方を教える	.210	-.186	.804	.302	-.059	-.219	.150	.112	-.165	-.124
自分でいったことを必ず実行し、うそをつかない	-.142	.325	.529	.098	.067	.059	.109	.090	-.024	-.196
第4因子 子供に対する誠実性										
いつも明るく子供達とつきあう	-.056	.156	.048	.842	.095	-.126	-.069	.076	-.189	.149
約束ごとをきちんと守る	.080	.083	-.164	.732	.086	-.082	.092	-.082	.272	.006
第5因子 子供の尊重と愛護心										
自分の考え方を押しつけないで子供の意見を取り入れて生活する	.139	.192	.034	-.078	.800	-.007	.130	.114	-.092	.095
危ないことは行わない	-.333	.170	-.091	.143	.818	-.135	.001	.042	.240	.056
いつも体の調子に注意する	-.262	.015	.021	-.024	.540	.205	-.042	.040	-.023	-.134
第6因子 非自立性										
子供の年齢や男女によって話し方や振る舞い方を変える	.053	-.002	-.024	-.052	-.055	.811	.073	.076	.039	.038
子供をひきつけるようなあたたかさを持っている	.013	.010	-.028	-.385	.085	.580	-.008	-.267	.042	.098
第7因子 決断力・あたたかさ										
子供達が迷っている時にも、キッパリとものごとを決める	-.004	-.046	-.012	-.054	.068	.080	.860	-.055	-.092	.027
子供をひきつけるようなあたたかさを持っている	.123	.337	.006	.120	.133	-.005	.542	-.193	.258	.111
第8因子 規則・マナーに対する忠実さ										
時間に遅れないで決められたことを素早く行う	-.018	.069	.058	-.002	.123	-.058	-.021	.822	.037	.027
行儀がよい	-.198	.339	-.099	.165	.164	.075	-.039	.519	.125	.111
第9因子 母親的役割										
怪我した人の手当や看病をする	-.130	.033	-.054	.007	-.006	.037	.016	.058	.885	.078
テントの組み立て、扱い方を教える	.483	-.082	-.173	.262	.109	-.160	.171	.083	-.503	.144
第10因子 自然に対する認識度										
人間と自然のつながりについて話をする	.057	.061	-.088	.134	.022	.116	-.075	.029	.044	.844
自然がどれだけ美しいものであるかを知っている	-.057	.396	.073	-.045	.477	-.065	.177	.061	-.051	.551
寄与率%	17.7	10.8	6.3	5.8	4.3	4.0	3.1	2.6	2.5	2.1

(SD=.67)へと変化したことから、キャンパーの「活動性・行動力」に対する男性役割志向は、キャンプ体験によって弱まった。因子別平均得点の0点は男女共性別を意味するため、「活動性・行動力」は、キャンプ後も依然として男性役割傾向にある因子だったことがわかる。これは、男女カウンセラーが同じ活動をこなせることを認識はしたものの、絶対的な身体能力、体力差を考慮した評価だったことが推測される。こういった「活動性・行動力」に対する男女共性別観は、キャンプによってさらに高まるのかについては再度調査を行う必要がある。今後は、カウンセラーの性別、活動内容、指導方法などとの関連について検討する必要があると考えられる。

次に、キャンパー性別の主効果について調べてみると、「責任感」(F(1,72)=7.89, P<.01)、「子供の尊重

と愛護心」(F(1,72)=5.77, P<.05)、「非自立性」(F(1,72)=5.08, P<.05)に有意差が認められた。以上の3因子における性別役割得点は、表3より、いずれも男子キャンパーより女子キャンパーの方が高かった。

したがって、「責任感」については男女共性別の性質としてとらえようとする意識傾向が男子キャンパーより女子キャンパーに強く現れているのに対し、「子供の尊重と愛護心」「非自立性」については、男子キャンパーの方がキャンパーより男女共性別観が強かったことがわかる。「責任感」=男女共性別、「子供の尊重と愛護心」「非自立性」=女性役割とした分類方法から判断すると、以上の3因子に対する評価は、男子よりも女子キャンパーの方がその意向に沿ったもので、女子がステレオタイプ的な価値観により強く影響されていたために生じた男女差だったととらえること

表3 男女キャンパーの性役割平均得点と標準偏差

	male		female	
	pre mean(SD)	post mean(SD)	pre mean(SD)	post mean(SD)
活動性・行動力	-.94(.58)	-.74(.77)	-.95(.46)	-.75(.51)
気づかい・細やかさ	-.27(.93)	-.40(.87)	-.74(.55)	-.46(.48)
責任感	-.68(.79)	-.51(.61)	-.25(.61)	-.25(.63)
子供に対する誠実性	-.25(1.00)	-.02(.86)	.19(.75)	.06(.56)
子供の尊重と愛護心	.36(.95)	.46(.86)	.87(.53)	.59(.56)
非自立性	-.13(.75)	-.04(.82)	.51(.78)	.22(.59)
決断力・あたたかさ	-.20(1.00)	-.11(.91)	-.04(.61)	-.04(.66)
規則・マナーに対する忠実さ	.33(.90)	.36(.79)	.64(.66)	.51(.58)
母親的役割	.93(.89)	1.04(.69)	1.24(.41)	.99(.48)
自然に対する認識度	-.07(.93)	-.11(.83)	.07(.91)	.21(.81)

ができる。

なお、カウンセラーの性別の主効果について同様の分析を行ったが、どの因子にも有意な差は認められなかった。

一方、交互作用については「気づかい・細やかさ」、
「子供に対する誠実性」の2因子が有意だった。

まず「気づかい・細やかさ」では、キャンパー性別×カウンセラー性別に有意差が認められた ($F(1,72) = 4.60, P < .05$) ため、下位検定を行った結果、女性カウンセラー班に属する女性キャンパーに有意な変化が認められた ($P < .05$)。表4は、各因子について、

表4 PRE・POST調査における性役割得点の平均と標準偏差

	PRE							
	男性カウンセラー				女性カウンセラー			
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
活動性・行動力	-.94	.56	-1.06	.45	-.94	.62	-.84	.45
気づかい・細やかさ	.45	.84	.63	.67	.07	1.02	.84	.39
責任感	-.73	.75	-.14	.54	-.63	.85	-.35	.67
子供に対する誠実性	-.07	1.02	-.12	.70	-.47	.95	.50	.69
子供の尊重と愛護心	.52	.74	.96	.51	.16	1.15	.78	.54
非自立性	.35	.71	.38	.94	-.13	.72	.65	.58
決断力・あたたかさ	-.00	.85	-.00	.71	-.45	1.13	-.09	.51
規則・マナーに対する忠実さ	.33	.86	.62	.78	.34	.96	.68	.53
母親的役割	.78	1.08	1.21	.47	1.11	.59	1.27	.36
自然に対する認識度	.09	.95	-.03	1.10	-.26	.90	.18	.71

	POST							
	男性カウンセラー				女性カウンセラー			
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
活動性・行動力	-.79	.82	-.84	.58	-.68	.73	-.67	.43
気づかい・細やかさ	.45	.83	.54	.47	.36	.93	.37	.48
責任感	-.52	.65	-.37	.59	-.49	.57	-.12	.67
子供に対する誠実性	-.07	.70	.15	.63	.03	.83	-.03	.48
子供の尊重と愛護心	.44	.77	.59	.60	.49	.98	.59	.53
非自立性	.09	.88	.21	.53	-.03	.77	.24	.66
決断力・あたたかさ	-.17	.92	.00	.77	-.21	.86	-.09	.54
規則・マナーに対する忠実さ	.17	.79	.59	.67	.58	.75	.44	.50
母親的役割	1.11	.67	1.03	.54	.95	.72	.94	.43
自然に対する認識度	-.20	.85	.32	.92	-.18	.84	.09	.69

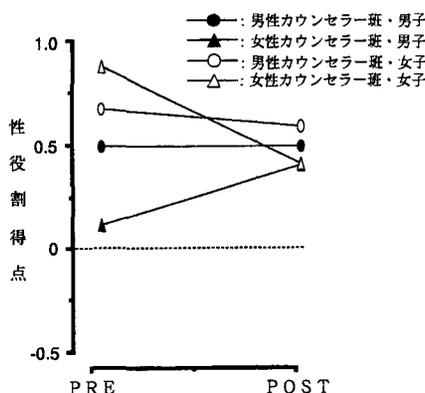


図1 「気づかい・細やかさ」性役割得点の変化と性差

男性・女性カウンセラー班別に男子・女子キャンパーの性役割得点の平均値と標準偏差を示したものである。図1とあわせて見ると、「気づかい・細やかさ」は、女性カウンセラー班の女子キャンパーが男女共性役割志向へと意識変化していることがわかる。

女性役割に属する「気づかい・細やかさ」に対し、女性カウンセラー班の女子キャンパーだけが反応したのは、興味深い。キャンパー性別の主効果に意識差が認められた女性役割因子について、女子が社会一般的な価値観により強く影響されていたために生じた男女差だったと前述したが、その女子キャンパーに対し、女性カウンセラーは男女共性の役割観へと変化させたことが注目される。これについては、次のことが考えられる。

一般的価値観の影響をより強く受けている女子キャンパーにとって、女性役割に相対する男性役割の性質である「活動性・行動力」を持つ女性カウンセラーの姿は、日常生活で見られる一般的イメージとかけ離れ、インパクトの強い存在だったことが予想される。こういった女性カウンセラーの行動が、間接的であったにしても「気づかい・細やかさ」の評価に影響しているものと思われる。

次に「子供に対する誠実性」では、キャンパー性別×カウンセラー性別×測定段階に有意差が認められた ($F(1,72) = 8.14, P < .01$)。したがって下位検定を行ったところ、女性カウンセラー班に属する男子 ($P < .05$)と女子 ($P < .01$)に有意な変化が認められた。表4、図2より「子供に対する誠実性」については、女性カウンセラー班に属する男女キャンパーそれぞれが、やはり男女共性の役割志向へと変化していることがうかがえる。

根本⁸⁾は、教師の児童への働きかけの比率の違いに

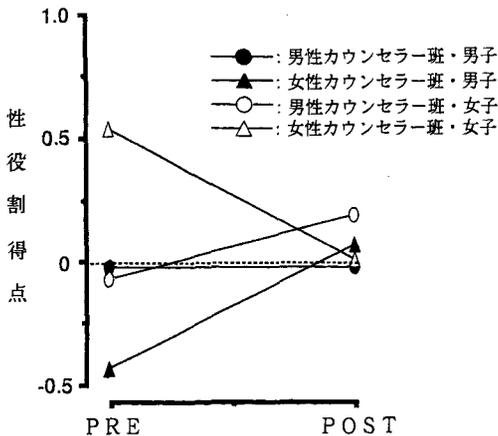


図2 「子供に対する誠実性」性役割得点の変化と性差

関する研究で、男性・女性教師共に、同性の児童により多く働きかける傾向があることを報告している。仮に、女性カウンセラーの「子供に対する誠実性」が、根本がいうように女子キャンパーに対して偏ったものであったなら、男子は働きかけが少ないと感じた分男性役割志向を、女子は働きかけを受けたと感じた分女性役割志向を強めたであろう。したがって、これは根本の報告を支持するものではなく、女性カウンセラーが男女キャンパーに偏りなく接していたことを意味するものと考えることができる。筆者の観察によると、カウンセラーが男子にも女子にもあらゆる体験をさせようといった指導方針を持っていたことや、キャンプ生活を共にすることで、どのキャンパーも、担当カウンセラーから密接な働きかけを受けていたことが要因として考えられる。キャンプにおけるカウンセラーの働きかけについては、量的、質的両面から検討する必要があると思われる。

以上より、キャンパーは初めてのキャンプを体験することで、わずか10日間で「活動性・行動力」(男性役割)、「気づかい・細やかさ」(女性役割)、「子供に対する誠実性」(男女共性)に対して新たな役割観を得た。この時期の児童・生徒は、こういった性役割に敏感であることを示している。

カウンセラーの自由記述によると、キャンパーの体力面、精神面に性差がみられること、男子は火つけ、女子は炊事といった役割分担が自然になされてしまうことなどに対して、カウンセラーは戸惑いを感じてい

たようである。しかしながら「力仕事、食事作りも全員でやっていくように指導している」に代表されるように、各々がステレオタイプ的な役割づけから離れ、どのキャンパーにも挑戦させる場を与えるようにと指導を行っていた。本研究は、こういったカウンセラーの指導背景があったことも見逃せない。キャンプは、キャンパーに対し、性役割の固定観念にとらわれない、より幅広い活動体験を提供し、性役割意識の変化に影響を及ぼしたものと推察される。

結 論

本研究の目的は、男女カウンセラーの性役割について評価するとともに、カウンセラーの性別、性役割がキャンパーの意識にどのような影響を及ぼすかについて検討することである。

その結果、以下のことが明らかになった。

- 1) キャンパーのカウンセラーに対する性役割意識は、男性役割として「活動性・行動力」、女性役割として「気づかい・細やかさ」「非自立性」「子供の尊重と愛護心」「母親的役割」、男女共性役割として「責任感」「子供に対する誠実性」「決断力・あたたかさ」「規則・マナーに関する忠実性」「自然に対する認識度」により構成されていた。
- 2) 男女共性役割に属する「責任感」、女性役割に属する「子供の尊重と愛護心」「非自立性」では、キャンプ体験にかかわらず、男女キャンパー間に意識差が認められた。
- 3) 男性役割に属する「活動性・行動力」の性役割意識は、担当カウンセラーの性別にかかわらず男女共性役割観へと変化した。
- 4) 女性役割に属する「気づかい・細やかさ」に対する女性カウンセラー班の女子キャンパーの性役割意識は、男女共性役割へと変化した。さらに男女共性役割に属する「子供に対する誠実性」では、女性カウンセラー班の男女キャンパーそれぞれに同様の変化が認められた。

以上より、カウンセラーはキャンパーの性別に付随する固定的な役割観を理解するとともに、カウンセラー自身の性役割が及ぼす影響力を考慮して指導を行うべきであることが示唆される。

今後の課題として、キャンパーの参加経験、カウンセラー個人の性役割意識、男女別班編成がキャンパーの性役割意識の変化に及ぼす影響を明らかにすることが必要である。また、各プログラムと男性・女性カウンセラーの関連を明らかにし、指導場面においてカウンセラーの性別をより有効的に使う方法を検討するべきであると考えられる。

主要引用・参考文献

- 1) 赤井 利男 「オーガナイズド・キャンプにおけるキャンプ・カウンセラー —その必要とされる資質に関して—」 昭和48年度東京教育大学体育科学研究科修士論文 1973年
- 2) Broverman, I.K., Vogel, S.R., Broverman, "Sex-role stereotypes: A current appraisal" *Journal of Social Issues* 28, pp. 59-78, 1972
- 3) Bem, S.L., "The measurement of psychological androgyny" *Journal of Consulting and Clinical psychology* 42 (2), pp. 155-162, 1974
- 4) Heilbrun, A.B., "Measurement of masculine and feminine sex role identities as independent dimension" *Journal of Consulting and Clinical psychology* 44, pp. 183-190, 1976
- 5) Heilbrun Jr. A.B., "Human sex-role behavior" Pergamon Press, 1981
- 6) 伊藤 裕子 「性役割の評価に関する研究」 *教育心理学研究* 26 (1) pp. 1-11 1978年
- 7) Mitchell, A.V., Meier, J.F., "Camp Counseling (Sixth Edition)" pp. 40-53, Sounders College Publishing, 1983
- 8) 根本 橋夫 「男性教師と女性教師の男児・女児に対する働きかけの比率の違い」 *教育心理研究* 38 (1) pp. 64-70 1990年
- 9) Rosenkrantz, P., Vogel, S., Bee, H., Broverman, I., & Broverman, D.M., "Sex Role Stereotypes and Self-concepts in College Students" *Journal of Consulting and Clinical Psychology* 32, pp. 287-295, 1968